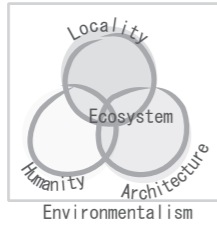


◆計画概要

□環境配慮型建築とは

この計画は論文「環境建築の設計手法」で定義した「環境空間」を具現化したのものである。

環境配慮型建築には、建築における空間の表現として環境要素を取り込むことが不可欠であると考えている。建築と、人間と地域とが互いに交わり合う部分こそ、これからの建築計画に最も必要なことであると考えている。



□土地を読む

山梨県山梨市にあるこの敷地は、最上部が570mの高さで最多風向は南の南斜面である。現在敷地には公園と、眺望を楽しむためのホテルが建てられている。甲府盆地を見下ろす風景は雄大である。アクセス条件もよく、敷地から山を少し上ると温泉が湧いているため県外からの訪問者も多い。



敷地より甲府盆地を見る

◆設計趣旨

この場所にしかない環境配慮型建築として、滞在型宿泊施設のあり方を提案する。

地球環境建築憲章に掲げられた5つのテーマの長寿命、自然共生、省エネルギー、継承の分野に配慮した人と自然と建築との関わり方の提案である。

□風景から装置、そして空間へ

ブドウの生産日本一を誇る山梨県のブドウ棚の風景は市民にとっては生活の一部であり、原風景である。それはこの場所にしかない風景を築く重要な要素である。

敷地周辺は特に広大なブドウ棚が広がる土地である。その風景の一部として高台の頂点に山梨市のシンボルとなるような施設をつくりたいと考えた。



敷地とブドウ棚

市民の原風景としてのブドウ棚を省エネルギーのための装置、スケールを変化させる装置として用いると同時に、棚そのものを人間の行為を包み込む皮膜として空間化する。

□3つのスケール

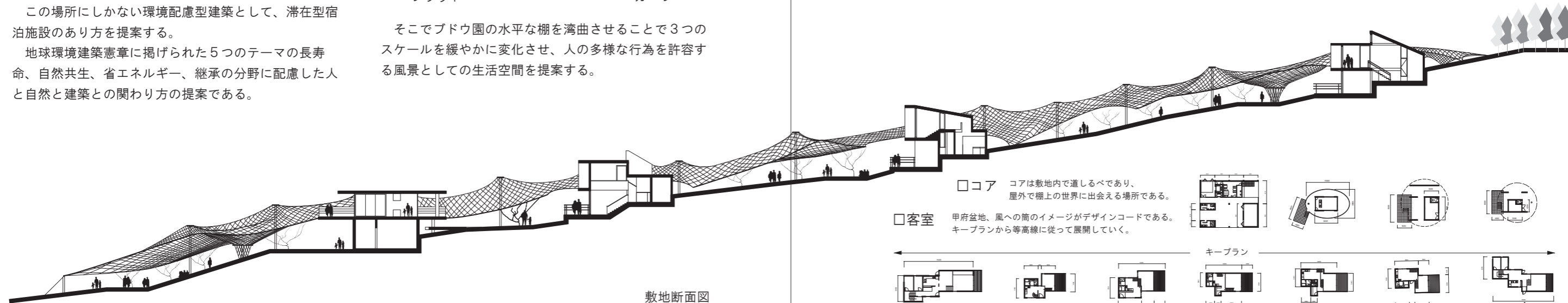
この計画にはまず、この土地のゴチソウである富士山・甲府盆地に向かって開けたスーパースケール(眺望)。次に、移動、散策、憩い、農業体験、交流の場となるパブリックスケール。そして、中・長期滞在者にとって宿泊棟が自分の家であるように感じられるヒューマンスケールの3つのスケールをコントロールすることが必要になる。



フラット

カーブ

そこでブドウ園の水平な棚を湾曲させることで3つのスケールを緩やかに変化させ、人の多様な行為を許容する風景としての生活空間を提案する。

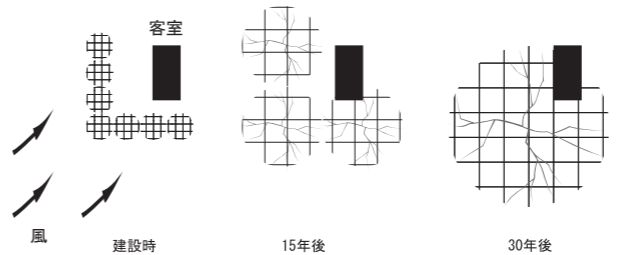


敷地断面図

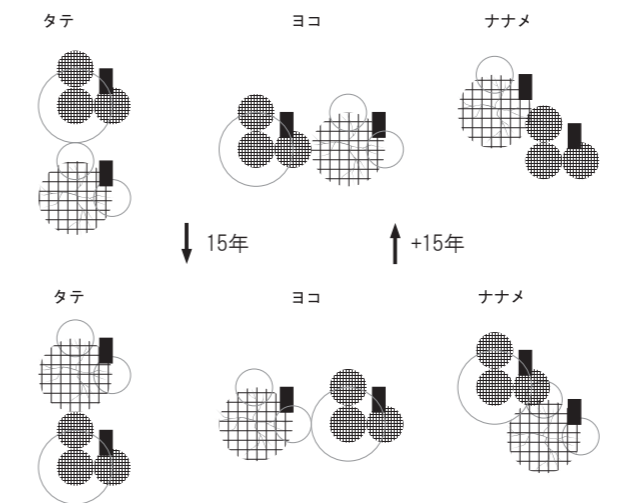
□ブドウと客室のユニット

果樹園のブドウは生長する木を選びそれを残して周りの木を切っていく。やがて木が生長し直径30m程度になったところでこの木を切り新しく植えなおすという循環のシステムがある。

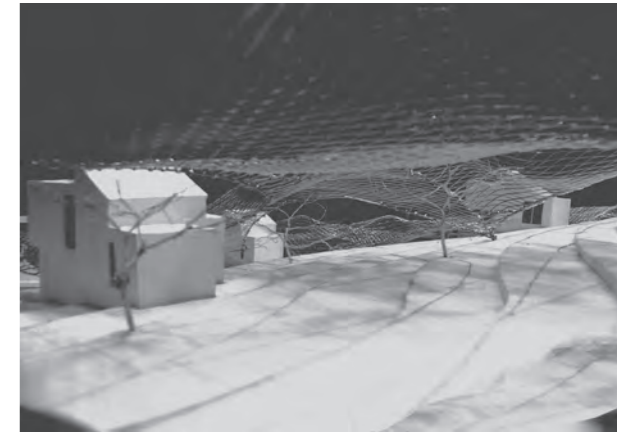
そのシステムに従い、風上にあるブドウ棚の日陰が客室に吹き込む風を冷やすよう関係性を一つのユニットの単位とした。ブドウが成長してもその関係は変わらない。



ユニット毎に木を植え換える30年毎のサイクルを半層ずつらすことで、常に甘いブドウが実る2つのユニットの組み合わせ方

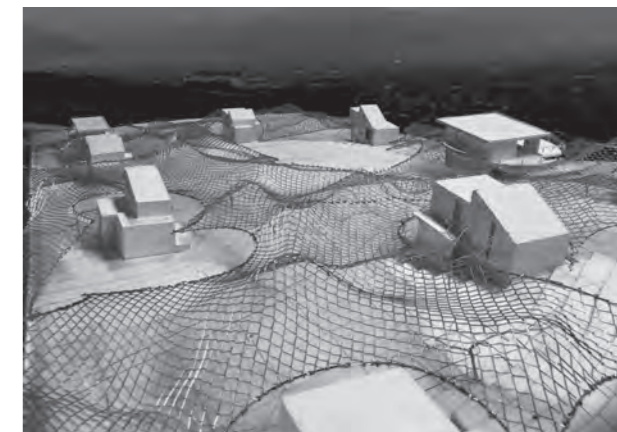


◆空間



□棚の下

棚の下は緑に包まれた心地よい日陰空間であり、ブドウの実やパノラマへの展望等、様々な展開するシーケンスが楽しい生活空間である。



□棚の上

棚上の世界は周囲の果樹園へとつながり風景の一部となる。棚の中に客室が埋まっているような景色はこれからの人間と自然との関わり方を象徴するだろう。

□コア コアは敷地内で通じるべであり、屋外で棚上の世界に出会える場所である。

□客室 甲府盆地、風への筒のイメージがデザインコードである。キープランから等高線に従って展開していく。

